

(2) 小集団学習と課題解決

小集団学習を、課題解決の過程の主に解決の見通し及び課題解決の段階に取り入れてきた。小集団学習が課題解決にどのように作用したかについて述べる。

課題については、多様な考えが出せるように、どの課題も2通り以上考えられるようにした。図4-3から図4-6までは、学習状況カードの各項目を分析し集計したものである。

① 課題解決に対する班の活動

ここでは、自分では解決方法が見つけられなかった生徒に対する班のはたらきかけについて、図4-3を基に考えてみる。

個人では考えをあまり出せなかった生徒も、時間を追うごとに班での活動によって考え方が見つかった生徒の数が増えてきている。このことと、次ページの図4-4、図4-5を併せて考えると、課題に対して自分なりの考えができるようになってきた。それと同時に、個人では1つの解決方法しか持てなかった生徒が、班活動によって2つの解決方法が持てるようになり、さらに2つの解決方法が持てた生徒は3つの解決方法が持てるようになるなど、解決方法の糸口をつかむための班学習から多様な考えを生み出す班学習へと変わってきたことがうかがえる。

<図4-3>個人と班での考え方の数の関係

(□…1人分を表す)

比較	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	個人→班
個人での考え方の数が、班での考え方の数より少ない。						0→1 0→2 0→3 1→2 1→3 2→3
個人での考え方の数と班での考え方の数が同じ。						1→1 2→2 3→3
個人での考え方の数が、班での考え方の数より多い。						2→1 3→1 3→2
班での考え方がみつからない。						0→0 1→0 2→0 3→0

(例) 1→2は個人での考え方が1通りであるが、班で話し合った結果、2通りの考え方ができた。